



## 政治、経済が悪くなったのではない、悪くなったのは人間

政治がわるくなった、経済も悪くなったという話が多くなりました。しかし、本当は政治や経済が悪くなったのではなくて、人間が悪くなったことによって、政治も経済も、また自然環境もすべてにわたって悪くなったのだと思います。

道徳心や公共心、他者への思いやりが失われる一方です。また、責任を負うべき立場にある人が無責任となり、問題が起こると他者に転嫁したり、責任を逃れる言葉にだけは長けている人が高い地位に就くという風潮になりました。このような悪しき風潮が世相を汚し、社会の荒廃を招き、忌まわしい犯罪を起こしているのです。すべての問題の原因は人間にあるのです。

近年、国の内外でたくさんの問題が発生しています。問題というのは、起きてすぐに対処すれば解決も早く、被害も少なくすみますが、これを隠蔽し、放っておけば、問題はどんどん大きく且つ複雑になり、解決も困難になります。それは、いまの豊洲新市場の問題を見ても明らかでしょう。食べ物を放っておくと、腐敗して悪臭をまき散らすように、隠蔽されている問題が腐敗物となって悪い気を発散しているために、国民の精神が汚されている世の中の実情であると思います。

残念ながら、いまの世の中は人の心を汚染するもので溢れています。これを止めない限り、社会は決してよくなると思いません。

## 良い社会に住みたいなら、自分が変わらなければならない

事態を打開するには、一人ひとりがこうした問題にもっと関心を持ち、他者への思いやりの心に基づいて、理不尽な行為を断固許さない社会にしていかなければなりません。その際に不可欠なのが道徳心です。

道徳的な生き方とは、何も特別なことではありません。手間暇がかかり面倒なことを厭わず、さりげなく、普通に実践していくことだと考えます。ゴミが落ちていれば拾う、机が汚れていれば拭く、自分の後から部屋に入ろうとする人がいれば、ドアを開けて待っていてあげる、そんな些細なことから始めればよいのです。

よい社会に住みたいなら、そうなるようにいまの自分の行動と考え方を変えていかなければなりません。逆のことばかりやっていると、いつまでも社会は変わりませんし、それは回りまわって結局自分に返ってきます。いまは、将来不幸になる生き方をしている人がなんと多いことでしょうか。

人々の間に道徳心や責任感が養われ、お互いを励まし、褒め、認め合う、思いやりで満ちた暖かい社会になることを、私は願ってやみません。



日本を美しくする会 相談役 鍵山秀三郎 致知 2月号 より

続けて、致知より抜粋しました。変わることの難しさを実感しています。そのために、致知の購読を続けています。見本誌を紹介しました、ご拝読願います。